



発行所 中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052(201)8811

不妊治療の負担軽減

体外受精 6時間で判定

愛知県豊田市小坂町、竹内病院トヨタ不妊センターの越知正憲所長らの研究グループが、体外受精で受精したかどうかを判定する時間を飛躍的に短縮することに成功した。未受精の場合には卵に人為的な操作を加える「顕微授精」を行い、受精率が大きく高まったという成果を十月一日、東京都内で開かれる日本

豊田の病院が成功



越知正憲所長

不妊学会で発表する。顕微授精は受精率が約八割と高く、通常の体外受精を経ずに行う医療機器

象にする」との見解を示核ができる「前核期胚でも、採卵から時間がたし、より自然に近い方法（はい）」の時期に受精しているため「ほとんどが望ましい」とされる。今の有無を判定する。研究「妊娠しない」という。このため、研究グループに判定。未受精卵に顕微授精を施した結果、最終的に「不必要な顕微授精を受精、異常などを除く15で、精子が入ると「第二に受精した対象者は全体の93%に達した。越知所長は「未受精卵を早期に観察を繰り返した結果、約六時間後に第二極体が放出され、受精判定が可能なることを突き止めた。この方法により、トヨタ不妊センターで体外受精を施した延べ二百四十四人について、六時間後

時間短縮、顕微授精を抑制

自然に近い形が理想

浜松医科大学産婦人科学教室の金山尚裕教授の話 第二極体の放出を確認した時点で卵子の質を判断する方法はこれまでになく、初めて臨床データを提示したことは画期的。明確な基準がなかった顕微授精の方向性を示す研究だ。体外受精は自然に近い形で行われることが理想。人為操作が多い顕微授精を抑制し、過剰医療を抑えることにもつながる。

「不必要な顕微授精を減らすことは、患者の負担を軽くすることにもつながると話している。

「不必要な顕微授精を減らすことは、患者の負担を軽くすることにもつながると話している。